



増設の新幹線は床几山配水池の下、現400^{mm}配水本管より分岐し、新設配水管路を経て雑賀町字馬背に出て同町相生町を經由、国道18号線を横断、本郷町の都市計画新設道路により天神川に達し同河床を横断、大正町・寺町を経て鉄道踏切りを渡り、和多見町に出て大橋川を新大橋によって横断、東本町に入る。

(松江市水道配水管平面図の赤着色ルート)

「松江市水道配水管平面図(第2次拡張事業)」

昭和8年(1933年)～11年(1936年)

松江市上水道の当初計画の際、幹線とする400^{mm}鉄管2線を敷設する要があったが、諸般の事情により1本であった。政府において国道19号線新大橋の改架により、この機会を利用して本幹線を2本とした。